

記者、希くは書名に注意されんことを。以上は拙著に對する文藝記者の批評に對しての余の感想を明にしたものである。余は世の教育家が無益な沈黙を守つて居る間に忌憚なき批評をされたことを切に文藝週報記者に感謝するものである。

# 幼稚園より小學校へ入學したる兒童の實際成績如何

京都市嘉樂小學校 藤田東洋

本篇は嘗て京都市教育雜誌へ掲載せられたるもの、友人某氏より態々寄せ越したるものである。方今、己が生みの子ある教育者すらも幼兒教育に冷淡なる秋、斯くも熱心なる研究を見るは痛快に堪えず。茲に之を諸君に紹介して研究の資料に供す。尙記事其物に關して吾人多少の異見あり。次號に於て述ぶる所あらん。(湘陽生記)

それ本題は最近の教育思潮に現はれたる問題にして教育當路者の深く研究を要する問題たるは論を俟たず現在に於ける幼稚園教育に於て満足すべき否や將亦改良するの必要無きや否吾人の近視眼を以て皮想的に否皮肉的に論及すれば大々の改良を施して保育の目的を達することに努力すべきなりと確信す或論者曰く「現在に於ける幼稚園は全廢すべし」とする所を認めず却て弊あるにあらざるやと「吾人は思ふ幼稚園は彼のフレibel氏の創設したる幼稚園の思想を受けて生じたるものにして家庭教育を補はん爲め必要なり」と所謂家庭教育又は幼稚園教育に於て幼兒の身體を健全に發達せしめ其力が健全に活動すべく養はれたらんには小學校に於て教授するに何等の差支なし其習慣的行動が善良ならば道德的陶冶は滑らかに進行することを得るは論を俟たざる所なり。然れども此の如き實際の保育がなされつゝあるものとすれば全廢論や改良論の聲を耳にすることなかるべし然るに世の識者は幼稚園を非難するにあらずや之れ其弊又は缺點の伏在せるを以てなり然

らば如何なる缺點よりして如何に改良するか其方法次第を逐次例證せんとす。

先づ幼稚園教育を受けたる者と然らざるものとが入學後に於て如何なる成績を呈しつゝあるか第一其長所とする所を擧ぐれば、

一、長所

(イ) 唱歌を多く知り歌ふ、多種多様な所謂幼兒に適する唱歌を歌ひ嬉々樂々たり。

(ロ) 幼兒の心身に適應せる遊戯を知り、又早く覺ゆる、幼兒の心身に適する無邪氣なる遊戯を知り又早く覺えて實に天真爛熳たり。

(ハ) 手工細工の技能科は上手なり、即ち一般兒童に比して多種を知り、又上手なり。

(ニ) 返辭をよくす、久しく幼稚園教育を受けたる結果にやハキハキ返辭する。

(ホ) 學校生活に慣る、一般兒童に比し教師に慣れ學校的生活に慣

る。

(ヘ) 國語算術等の學科は全半期に於て稍進歩著しき様なるも後半期よりは餘り成績異なら

次に缺點とし弊と認むる事項を擧れば次の如し。

二、短所

(イ) 教師に慣れ過ぎる、換言すれば教師の命令を輕んじ教師を尊敬する等の念更に見受くる所なく多少幼稚園に於て學習したる素養を以て教師の談話、教師の教授する事項を克く聞き以て學習するもの少く凡て早合點を爲し氣儘にも教授に注意を拂はず浮薄にして一般兒童の妨害を爲す是れ其害とする一なり。

(ロ) 規律を確守せず、入學當時より克く彼等を觀察するに、差したる家庭教育も受けず幼稚園の教育も取けずして入學したる兒童よりも遙かに規律なし。其整列する有様に於て教室内に於ける姿勢

をいはば右向左向き後顧して他兒童と談話し或は机を開き石盤或は其他の物を弄し殆んど氣儘放題なり之れが爲め他の兒童の妨害を爲すのみならず授業を妨ぐることは教授者の平素に於ける小言の一なり。

(一)一學年に於ける躰方に一大苦心を要す、以上述べたるが如く小學校教育の基礎とする第一學年の躰方に於て一大困難を來たす此の如き訓練的方面に於て教育者の苦心と共に教授管理の上に同様の苦心を爲す。

此保育を受けたる兒童は兒童の天性を發揮する即ち自發活動を爲せるなりと雖自發活動なるものにあらず皮肉的に云はば氣儘にして亂暴なりと云ふべし。

若し彼れを以て自發活動とするならば今一層此自發活動の利用法を講究し之れが實行を要す。

(二)保育を受けたるものと然らざるものと、此兩者を實驗上より打算すれば幼稚園の効果をみる僅々即ち低學年に於ては前述の如

(ホ)生活の變動、學校生活と幼稚園生活とは相異なり、幼稚園は學校的生活に慣れ居ると云ふは皮想觀にして實際は然らず。即ち秩序あり規律ある學校的生活に慣れたるにあらず前に述べたるが如く不規律なる生活にして換言すれば學校的生活即ち社會的生活には慣れざるの結果に外ならず時世の進運上以前の如く入學兒童の歌に學校はコワキモノナリタノシキモノナリ、オトナシクセネバナラヌモノナリ、キバツテペンキヤウセチバナラヌモノデアルと云ふ

が如き感を有する時代と異なり幼稚園に於て慣れしくなり教師を何とも思はず保母の命を眞實の親と信じ師と信じて慣れたるにあらざる故に保母は下女下男或は友達等の思ふ様に養成されたるを以て今日小學校に入學して非難の聲を聞くものなり、此の如き有様になる即ち交際に慣れ過ぎる故に普通の兒童の方却て眞面目にして愛らしき方なり。

(一)物知り顔をする、  
多少物が分り朋友と交際に團體的生活に慣れたる結果にや教師發問すれば直ちに物知り顔を現はれし教師に答へず朋友と何をか下らぬことを小言するあり故に彼等が知るものならば興味少く教師の話を耳にせずとは之れならんか眞面目に事に従はず。  
(ト)普通の兒童よりも亂暴なり、  
幼稚園教育を受けたるものは團體的生活に慣れたるに可否學校生活に慣れざるも幼稚園に於て爲し、如く之を應用して普通兒童

二四  
の如く眞面目に教師の命を待ちて始めて動作せるが如くならず所謂俗に曰く「オホハバ」して自由に活動する、他の兒童を威嚇し亂暴の行爲をなすなり。  
(チ)普通の兒童よりも克く喋舌る、  
即ち多辯にして靜肅を缺く「談話」は保育教科事項中にありと雖決してお轉婆の落語家講談士等の如きを要求するにあらず正しき言語を教へ決して喋舌的の人物を作りたるにあらざるも此弊を生じたるはそも無暗に出鱈目に放任主義に何等の制限制裁を加へず放任したる結果にあらざるなきか？

(リ)教科の重復よりして倦怠すること、  
例へば唱歌の如き遊戯の如き手工の如きは皆知れるが故に大に興味を減じ倦怠する。  
(ヌ)教科に於ける成績につきて  
修身其他談話は最も好み算術國語は一學年の前半期に良好なるも其以後に於ては各學年を通じて成績不良なり。  
技能的方面は成績佳良なり。

幼稚園教育を受けたるものは團體的生活に慣れたるに可否學校生活に慣れざるも幼稚園に於て爲し、如く之を應用して普通兒童

依之觀之現今の幼稚園は知覺の啓發に力を盡されつゝあるも之れが幼兒の心身發達の階段に從ひて心理的に論理的に社會の變遷、教育思潮の變動に基きて爲されつゝあるや否、古式の典型を金玉條と仰ぎ主義方針及土地の狀況を考慮するの活眼なきにあらざるなきか。

是等の點よりして恩物及手工遊戯唱歌等の教科とすべきもの、改良を要する點なきや否、徳性を涵養し身體を發育し交際に慣れ善良なる習慣を得せしむるは保育の目的とする所なり。

吾人が觀る所によれば身體をして健全に發達せしむるに於て幼稚園保母諸君は如何なる計畫方針を樹て、如何なる方法の下に幼兒の身體の健全を計られつゝあるか、定めし桃太郎、雀どん、兎と龜、金太郎の動作遊戯然らずんば自由遊戯なり是等は尋常一學年位に適せんや幼稚園は今一段子供的の遊戯を選択するの必要なきや然れども是等の遊戯の絶對的價値なしと云ふにあらす併し是等を以て身體の發育を計られざるは勿論なるも吾人時々耳にし眼にする某幼稚園の如きは只責め防ぎ主義に

して此以外に何等の計畫なく幾年を経過するも平然として千變一律に爲されつゝあるが如きとは斯道の爲め遺憾なり此皮想的觀察否想像を以て完全なる幼稚園を非難するは其當を失せるものなり只諸賢士叱正を仰がば幸甚。

改良策

世人の幼稚園を非難するは幼稚園其物を非とするものにあらずして其旨趣方法を誤れることを駁するを常とす是れ實際不良の結果を招き又は其効果を認めざるを誹るものなれども僧を惡むの結果は(心は)袈裟に及ぶの譬に洩れず遂に幼稚園を重んぜざるに至りしならん要するに今日の幼稚園は形式に止まり精神の到る所なきもの十中の八九を占め其精神の活動の利用に迂なるは非難の焦點と云ふべし。

今吾人は數多の改良策を有するも先づ其の一二を羅列せば、  
一、幼稚園と小學校と連絡を附くこと、  
幼稚園と小學校との事業は全然異なるとは云へ彼の内容を見るに小學校一學年の教程と大同小

二、幼兒取扱方法の改良、

（イ）現在に於ける幼稚園の非難を云は、形式に止まり眞の母眞の教師眞の植木師の念を以て保育せられつゝあるや否の點なり。現今の愛は姑息的の愛に過ぎず故に割合規律なく氣儘放題ならんか換言すれば保母の愛に依れるにや保母に慣れ過ぎ保母も亦幼兒の機嫌取りに心を勞しつゝあるにあらずや。

園児は一般の幼兒よりは社會生活否團體的生活の境遇に慣れたるなりとは云へ之れ無意味なる團體的生活なり故に今一層真正

の愛を以て之を誘導感化し以て彼等の心身の活動を行はしめ善良なる習慣を養成することこそ急務なり。

（ロ）幼兒の個性を觀察し取扱に注意すべし、幼兒の發達の度に應じて各組を分ちて現在保育を施しつゝあるも一面、幼兒の個性を觀察し注意し各自に適切なる訓育を加ふべし。

（ハ）目的と方便とを明確にすること幼兒の心身の發達狀況を考へ目的と方法とを明かにすべきこと、決して新奇なる方法を好み所謂流行を追ふことなく眞面目に此目的の區別を明確ならしめんことを要す。

（ニ）自然に接觸せしむる機會を多からしむべし、體育に於ては相當鍛鍊せられたるが如き感ありと雖只だ屋内遊戯場乃至箱庭的の園庭に於て多少の運動をなす位にて附近の公園等を利用して時々郊外に引牽し一は見聞を擴

